

第6章 歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標と課題

ここまで、伊那市の現在の様子やそれぞれの地域の歴史をまとめ、歴史文化資源がどこに、どのような状態で残っているのかを見てきました。ここからは、これらの歴史文化資源を私たちがどのように守り、使っていったらよいのかを考えます。



1 歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標



市内の歴史文化資源を守り、使っていくための、これからの目標を「知る」、「守る」、「活かす」の3つに決めました。それぞれ、どうすればこれらの目標を達成できるのか、ここで取組をまとめます。

伊那市では歴史文化資源の保存・活用を図るための基本目標として、以下の3項目を設定します。3つの基本目標は、それぞれの領域が重なり合って成り立つ3つの円で、相互に関わりを持たせながら様々な事業を行うことで、より大きな効果を上げることを目指します。

基本目標「知る」 — 歴史文化資源を知る —

基本目標「守る」 — 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり —

基本目標「活かす」 — 歴史文化資源を広め活用する —

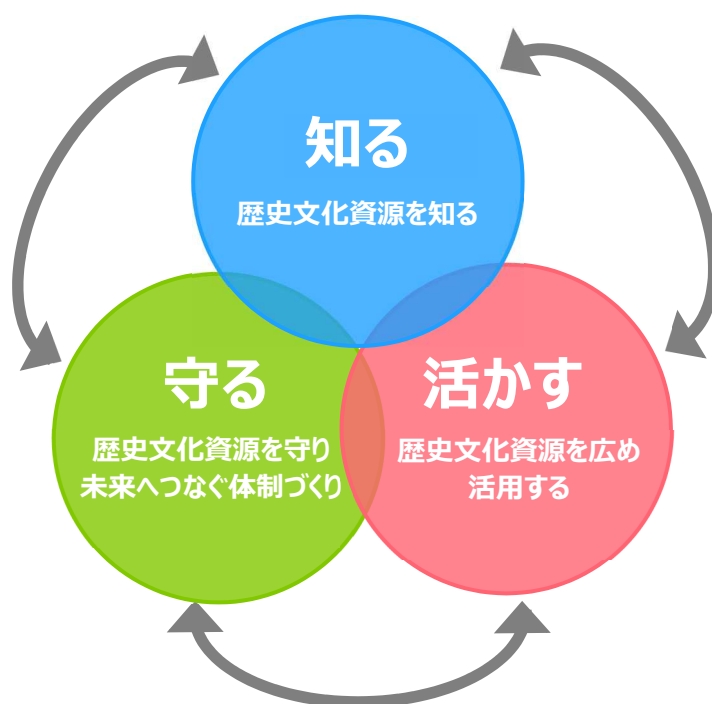
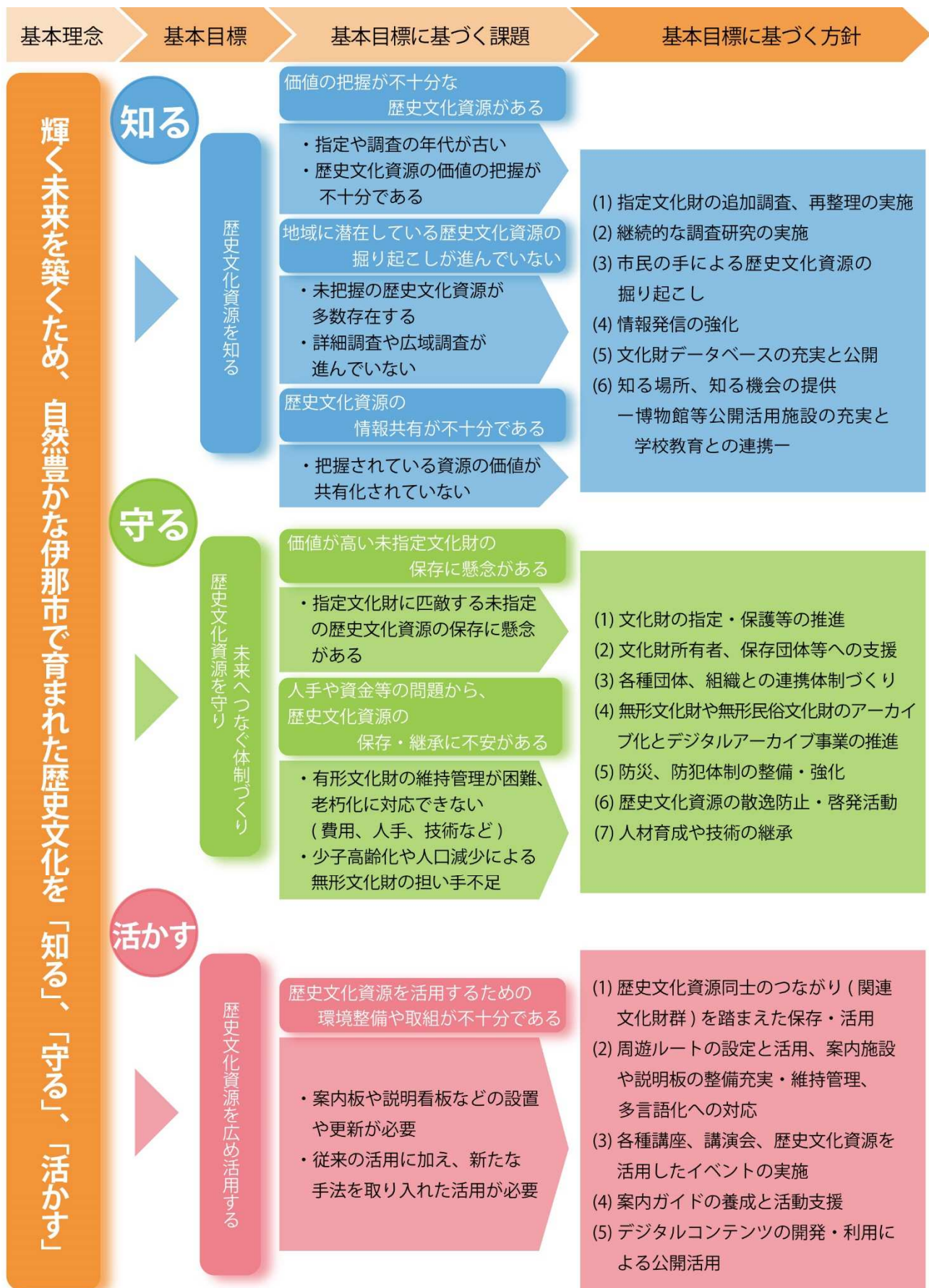


図. 歴史文化資源の保存・活用のイメージ



2 基本目標に基づく課題

第1章から第4章にかけて、伊那市の歴史文化資源を取り巻く状況を整理してきましたが、保存・活用につながる前向きな取組が行われる一方で、様々な問題点が浮かび上がってきました。これらの問題点を基本目標に基づいて整理すると、以下のように整理することができます。

2-1 基本目標「知る」に基づく課題

価値の把握が不十分な歴史文化資源がある

指定年代が古い指定等文化財の中には、価値の把握が不十分なものがあります。また、過去に発掘調査が行われた重要な遺跡の中には、新たな知見を取り入れた再整理作業が必要なものがあります。

地域に潜在している歴史文化資源の掘り起こしが進んでいない

各種調査で、数多くの歴史文化資源が見出されていますが、地域にはまだ埋もれた歴史文化資源がたくさんあると考えられます。個々の資源の調査は必要に応じて行われていますが、簡易的な調査の場合が多く、詳細調査や類例を把握するような広域調査が進んでいないため、資源の数や保存状態の把握も十分ではありません。

高遠町地域や長谷地域では、建造物(民家や神社建築)や無形の民俗文化財の把握調査が進んでおらず、旧伊那市域8地区と比較して、資源の把握状況に差があります。また、有形文化財や有形の民俗文化財では、個人所有の歴史文化資源の把握が進んでいません。名勝地や伝統的建造物群、文化的景観、文化財の保存技術、自然景観、屋号などの分野においては、ほとんど把握がされていないのが現状です。

歴史文化資源の情報共有が不十分である

伊那市では、歴史文化資源に関する情報を、様々な形で市民に向けて発信していますが、十分に伝わっているとはいえません。地域住民に対するアンケートでも、情報発信の充実を望む声が多く聞かれ、すでに存在が明らかになっている歴史文化資源であっても、情報の共有化が不十分であることが明らかになりました。

2-2 基本目標「守る」に基づく課題

価値が高い未指定文化財の保存に懸念がある

3市町村の合併から18年を経過していますが、文化財の指定状況に地域差があり、未指定文化財の中には、指定等文化財に匹敵するものでありながら、保存に懸念が生じているものも見受けられます。こうした歴史文化資源を確実に保存するため、調査成果に基づき文化財指定を進める必要があります。

人手や資金等の問題から、歴史文化資源の保存・継承に不安がある

所有者アンケートの意見にも見られるとおり、有形の歴史文化資源の中には、老朽化が進み修繕の必要がありながら、費用、人手、技術的な問題から修繕の見込みの立たないものが複数あるほか、伝統行事や祭礼などの無形の文化財も、少子高齢化や人口減少などによって維持が困難となっているものが数多くあります。音楽、舞踊、年中行事、祭事、民話については、近年、簡略化や担い手不足などにより、受け継がれてきた形が変わるばかりでなく、それ自体の存続も危惧されています。

歴史文化資源が将来にわたって保存・継承できるように、アーカイブ化や維持管理に関わる人々の負担を軽減する仕組(財源や担い手の確保)や、近年各地で頻発している気象災害への対応(防災の取組)など、地域全体で支え合う体制づくりなどが求められています。

2-3 基本目標「活かす」に基づく課題

歴史文化資源を活用するための環境整備や取組が不十分である

伊那市に数多く存在する歴史文化資源は、そこにあるだけでは地域の魅力を高めることになりません。その歴史文化資源が何であるか、歴史や価値、そこにある意味などを理解することで、はじめて地域の宝として認知され、地域活性化の種となります。

所有者アンケートの結果、多くの文化財所有者が地域の活性化に歴史文化資源を利用していきたいと考えており、地域住民アンケートでも積極的な公開や観光振興との連携を期待する声があります。一方で、現地に誘導するための案内板の設置や、理解を促す看板の更新を望む声が聞かれ、活用のための環境が十分に整っていないことが明らかとなりました。

また、歴史文化資源を観光資源として積極的に活用することや、デジタルコンテンツによって多くの人が手軽に活用できるように期待する声、体験型の講座を増やし、大人も子どもも楽しみながら歴史文化資源に興味を持ってもらえるような取組を期待する声も聞かれました。今まで行ってきた活用に加え、これまでの手法に留まらない活用を取り入れる必要があります。

3 基本目標に基づく方針

前節に挙げた課題を踏まえ、3つの基本目標に基づき歴史文化資源の保存・活用を進めるための方針は、それぞれ以下のとおりです。

3-1 基本目標「知る」の基本方針

指定等文化財や遺跡の学術的な価値を、今以上に把握するため、詳細な調査研究を進めます。また、広域的な調査や市民の皆さんと共に調査を進めることで、新たな歴史文化資源の把握や価値の掘り起こしを行います。加えて、市民に情報が届くような仕組づくりを進め、歴史文化資源の価値や魅力、関連文化財群の考え方(第8章で詳述)を共有します。

基本目標に基づく方針

(1) 指定等文化財の追加調査、再整理の実施

指定年が古く、調査が十分でない文化財や調査成果があいまいな文化財は、必要に応じて追加調査や再調査をするほか、指定史跡の過去の調査資料(出土遺物・調査記録など)の再整理を実施し、文化財としての価値を再評価した上で、活用事業につなげます。

(2) 継続的な調査研究の実施

伊那市に関わる歴史文化資源を新たに把握するため、詳細な調査を実施します。また、既存の資源に関してもその価値をより一層明らかにするため、調査・研究を継続的に実施します。

埋蔵文化財についても、保存を目的とした詳細調査の推進を図り、重要な遺跡の把握や保存に向けた資料の収集を図ります。

調査・研究は、指定、未指定に関わらず、幅広い分野を対象とし、それぞれの分野での類例調査や悉皆調査(余すことなく一点一点調べる調査)などを実施し、大学や研究機関、専門家などと連携した学術的な調査も行っていきます。今後はそれらの価値を横断的に明らかにしながら、地域住民や所有者と専門家や行政が連携して伊那市らしさを紐解いていくことができるようにします。

(3) 市民の手による歴史文化資源の掘り起こし

全市的に行われた「古い地名調査」のように、地域での取組を今後も大切にし、歴史文化資源に興味関心がある市民とともに、様々な調査や整理作業を行ったり、市民参加のイベントやワークショップを行ったりしながら、地域に暮らす人々の目線に立ち、新たな歴史文化資源を発掘していきます。

また、歴史文化資源だけでなく、所有者や管理者などの資源に寄り添い守る「人」も併せて把握するよう努めます。

(4) 情報発信の強化

市内に存在する歴史文化資源の価値や魅力を多くの人に知ってもらうため、歴史文化資源に関わる情報を市報や市のホームページ、SNSなどを通じて公開し、市内外に向けて発信します。多くの人の興味関心を引くための優れた情報、質の高い情報づくりを心がけます。

また、伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資す

るため『伊那市誌』を編さんし、刊行します。

(5)文化財データベースの充実と公開

指定等文化財の保存・活用を円滑に行うため、さらなる情報収集を行い、文化財データベース(文化財台帳)を充実させるとともに、未指定の歴史文化資源のデータベース化に取り組みます。そして、多くの人々が地域の歴史文化資源について知り、自ら調べることができるよう、これらのデータベースの公開を行います。

(6)知る場所、知る機会の提供 ―博物館等公開活用施設の充実と学校教育との連携―

歴史文化資源の存在やその価値を多くの市民と共有するため、伊那市創造館、伊那市立高遠町歴史博物館、伊那市民俗資料館、信州高遠美術館等の博物館施設で展示や学習の機会を提供します。あわせて展示の充実や必要な設備の充実を図ります。

また、ふるさと伊那を知り、歴史文化資源に触れる機会を大切にするため、市内の小中学校、高等学校と連携しながら、子ども達に向けた展示見学や体験学習などの機会を提供します。

3-2 基本目標「**守る**」の基本方針

法律や条例に基づいて文化財の指定や保護施策を進め、指定等文化財に匹敵する価値が高い未指定文化財の保存を図ります。

私たちが受け継いだ歴史文化資源の中には、経年劣化や自然環境の変化のほか、後継者の不在や減少、担い手不足といった社会環境の変化により、存続が危ぶまれるものも少なくありません。また近年、国内外で火災や自然災害で文化財が被災するケースが相次いでいます。地域のアイデンティティーでもある歴史文化資源を維持し、将来にわたって確実に受け継いでいくためにも、行政内部の密接な連携の上、所有者や保存団体のほか、多くの主体がそれぞれの立場で保存・活用に関わり、様々な組織と連携を図りながら、地域ぐるみで歴史文化資源を保存・継承できるような体制づくりを進めます。

基本目標に基づく方針

(1) 文化財の指定・保護等の推進

市内の歴史文化資源の指定等の状況を見ると、件数や内容に地域差があります。すでに認知されている歴史文化資源や、悉皆調査や類例調査などから見出された資源の中で、指定文化財に匹敵するものがある場合は、必要に応じて文化財指定を進めます。

文化財保護法や長野県文化財保護条例、伊那市文化財保護条例に基づく指定等文化財の保護推進はもちろんのこと、周辺環境を含めた一体的な保護を進めます。

また埋蔵文化財についても、開発事業に関連する遺跡は関係機関と調整を図り、現状保存が難しい遺跡は記録保存のための発掘調査を行うなど、文化財保護法に基づいた確実な保護施策を進めます。

(2) 文化財所有者、保存団体等への支援

文化財所有者アンケートで明らかになった様々な課題(維持管理体制の充実、後継者確保、維持管理にかかる財源の確保など)(第4章及び資料編で詳述)に対応するため、所有者や保存団体を助言・支援するための制度や仕組みづくりを検討します。

(3) 各種団体、組織との連携体制づくり

地域全体で歴史文化を保存・活用する社会の実現を目指します。歴史文化資源に関わる組織や団体の活動をより充実させるため、所有者、保存団体、観光関係者、行政区などの組織や団体をネットワーク化し、現状や課題、解決策などを共有する機会を設けられるような体制づくりを行います。

また、南アルプスユネスコエコパーク・南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの認定登録エリア内にある歴史文化資源については、それぞれの理念に沿って、近隣自治体と連携しながら、保存・活用を進めます。

(4) 無形文化財や無形の民俗文化財のアーカイブ化とデジタルアーカイブ事業の推進

簡略化や担い手不足などによって存続が^{きん}危惧されている無形文化財や無形の民俗文化財について、今ある形を把握し、将来に受け継いでいくため、文字や写真、映像などにより一連の内容の記録化を進めます。

また、地域の歴史文化を理解する上で欠かせない地域資料や古い写真、映像のデジタル化に取り組み、貴重な資料や記録を保存するとともに、公開活用につなげます。

(5) 防災、防犯体制の整備・強化

指定等文化財を対象とした防災訓練やパトロールなどを実施するほか、消防署、警察署などの関係機関と連携し、防犯・防災体制の確立に努めます。

歴史文化資源の所在地、所有者、管理者、連絡先など、現状を確認するための調査を行った上で情報を整理し、長野県教育委員会と連携しながら、有事の際に迅速な対応ができるように体制を整えます。

また、文化庁から示されている「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」(令和2年(2020年)12月改訂)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」(令和元年(2019年)9月)と「世界遺産・国宝等における防火対策5箇年計画」(令和元年(2019年)12月)に基づいて、指定等文化財や収蔵施設の点検を行い、今後の防火対策に取り組みます。

(6) 歴史文化資源の散逸防止・啓発活動

歴史文化資源の散逸を防ぐため、市教育委員会や博物館施設などに歴史文化資源に関わる相談窓口を設けます。

また、災害時に備え、歴史文化資源の所在地、所有者、管理者、連絡先など、現状を確認するための調査を行った上で、散逸の恐れがある資料は、市が必要に応じて収集や保存を行います。また、市の広報誌やホームページなどを使いながら、所有者や管理者はもちろんのこと、地域全体での見守りにつながるように、保護意識を高めるための啓発活動を行います。

(7) 人材育成や技術の継承

担い手や生産者が高齢化し、減少傾向にある高遠ばやしなどの無形文化財、中尾歌舞伎などの無形の民俗文化財、^{すずたけざいく}簗竹細工などの伝統工芸について、文化や技術を途絶えさせることなく伝えていくため、将来地域の歴史文化を担う子ども達との関わりを大切にし、保存団体や小中学校のクラブ活動と連携しながら、子ども達が活動に参加し、技術や技能を受け継ぐ機会を設けます。また、子ども達の活動を通して、若い親世代の理解や関心につなげていきます。

3-3 基本目標「活かす」の基本方針

個々の歴史文化資源の価値や地域の魅力を高めるため、市内の歴史文化資源を総体的に捉え、つながりを意識した保存・活用を図るとともに、それに必要な環境を整えます。歴史文化資源を含む地域の魅力を、様々なイベントや記念行事、講座、講演会、デジタルコンテンツ、文化観光施策などを通して多くの人に広め、活用が保存・継承と両輪をなすような施策展開を進めます。

今まで以上に地域に愛着を持てるような取組を検討しながら、行政内部や地域住民、各種団体などと連携した上で活用事業を実施します。

基本目標に基づく方針

(1) 歴史文化資源同士のつながり(関連文化財群)を踏まえた保存・活用

歴史文化資源の本来の価値を後世に伝えていくため、周辺環境や他の資源とのつながりを意識し、それらを一体的に保存・活用するための取組を進めます。市内に存在する歴史文化資源の中から、関連のある歴史文化資源同士をつなげて関連文化財群を設定し、歴史文化資源を総体的に捉えながら保存・活用を図ります。

(2) 周遊ルートの設定と活用、案内施設や説明板の整備充実・維持管理、多言語化への対応

地域別の周遊ルートや関連文化財群を活かした周遊ルートを設定し、歴史文化資源を通して伊那市の魅力を内外に発信します。また、現地へ行きやすく、現地を訪れた人にその魅力が伝わるように、案内施設の内容充実や既存説明板などの適切な管理を行い、必要に応じて新たな案内板の整備を行います。近年増え続ける訪日外国人旅行者や外国人移住者に対しても、伊那市の魅力を伝え、歴史文化資源への理解が進むように、観光施策と連携しながら多言語による情報発信も併せて検討・実施します。

(3) 各種講座、講演会、歴史文化資源を活用したイベントの実施

歴史文化資源をとりあげた様々なイベントや記念行事を実施し、歴史文化資源を通して、子どもから大人まで様々な世代に伊那市の魅力を感じてもらい、将来へ伝えていくために、関係者がそれぞれの立場で、多くの方が参加しやすいようなイベントや講座などを開催します。

また、行政以外が主催するイベントについては、地域振興や商工振興の観点も含めて、行政による支援を行います。

(4) 案内ガイドの養成と活動支援

歴史文化資源の価値や魅力を正しく伝えながら、多くの人に地域の魅力を広めるため、観光協会や郷土研究会などと連携しながら、案内ガイドの養成や活動の支援を行います。

(5) デジタルコンテンツの開発・利用による公開活用

歴史文化資源の本質的価値を分かりやすく正確に伝えるため、デジタルコンテンツを利用した公開活用を進めます。例えば、看板の中にQRコードを設け、見学者が目的に応じて多くの情報を取得できるようにする、AR(拡張現実)・VR(仮想現実)技術を利用し、地域の歴史文化資源を体感できるようにするなど、世代を問わず参加しやすい公開活用を目指します。

4 地域ごとの保存・活用の考え方



「伊那地域」、「高遠町地域」、「長谷地域」には、それぞれに特徴的な歴史や文化、自然があります。地域ごとの歴史文化資源の守り方、使い方を考えます。そして地域の活動の中心となる施設を決めます。

4-1 地域区分の方針と考え方

基本目標に基づく方針に沿って取り組む具体的な事業（第7章以降に列举）には、市内全域で取り組むものと、地域特性を踏まえ、特定の地域で重点的な取組を進めることで、より一層保存・活用につながるものがあります。

このことから、地域のつながりと歴史文化の関連性に基づいて、伊那市では、旧行政単位である3地域「伊那地域（旧伊那市）」、「高遠町地域（旧高遠町）」、「長谷地域（旧長谷村）」ごとに、歴史文化資源を保存・活用するための考え方を定め、拠点となる施設を中心に保存・活用を図ります。

地域の特性を活かした保存・活用の取組が、各拠点施設を中心として円滑に進むように、拠点施設の認知度を高めるための広報周知も積極的に行います。

4-2 地域ごとの保存・活用の考え方と拠点施設

伊那地域

- ・古墳群を周辺環境と一体的な景観として捉えて、段丘崖や山の自然環境と歴史的景観を総合的に保存・活用するとともに地域の魅力として発信して、地域全体の歴史の理解が深まるような現地公開に努めていきます。
- ・通り町の看板建築や中央区の商店街建物群などレトロな町並みを活かし、地域で活動する企業や団体などと連携しながら、この地域の食文化やまちの成り立ちを再認識してもらえるような取組を進めます。また地域に遺る近現代建築の調査を進め、その価値を周知していきます。
- ・伊那街道（三州街道）や権兵衛街道、「伊那郡宿酒屋旧井澤家住宅」といった街道や歴史的な町並みを活用し、地域住民と一体となって未来へ伝えていけるような方法を検討します。
- ・指定文化財である「山寺のやきもち踊りの習俗」、「サンヨリコヨリ」、「諏訪形の御柱祭と騎馬行列」、「羽広の獅子舞」、「青島の千社参り」のほか、未指定の郷土芸能や年中行事の無形資源の記録化などを検討します。さらに後継者の育成・支援を検討します。
- ・戦争遺跡である「旧陸軍伊那飛行場跡地」を活用した歴史学習の機会を設けることを検討し、平和を考える機会を創出します。
- ・「野口八幡神社舞台」や「四国八十八か所巡礼塔」といった農村の娯楽や信仰に関わる資源を活用し、当時の農村での暮らしや信仰などの文化を周知する取組を検討します。

拠点施設〈伊那市創造館〉

伊那市創造館の機能を充実させ、幅広く歴史文化を発信する拠点施設や学習拠点として活用します。各公民館と連携してこれらの取組の広がりが持てるよう推進します。

高遠町地域

- ・文化財マップなどで歴史文化資源の位置や内容を明らかにし、AR(拡張現実)・VR(仮想現実)などのデジタル技術を積極的に取り入れながら、観光施策と連携した活用を図ります。
- ・高遠城跡^{たかとおじょうせき}の桜が全国的な知名度を誇り、全国から観光客が訪れていることを活かし、高遠城や高遠周辺の歴史を広く周知し、歴史文化資源と自然、観光を融合^{ゆうごう}させた活用を検討します。
- ・寺社などは、老朽化や管理者の高齢化に伴い、維持管理が困難になっているという現状があり、継続的な維持管理や保存・活用方法などを検討します。
- ・高遠石工^{たかとおいしく}のふるさととして、高遠石工に関する情報を広く集め発信するとともに、所有者や地域住民との協働により、維持管理・継承ができる方法を検討します。
- ・高遠ばやしなどの無形文化財は、保存団体や地域の学校などと連携しながら保存・継承に努め、地域コミュニティの活性化を図ります。

拠点施設〈伊那市立高遠町歴史博物館〉

史跡高遠城跡を中心に、伊那市立高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、伊那市民俗資料館の機能を充実させ、特に歴史文化の発信拠点や学習拠点施設として、伊那市立高遠町歴史博物館を活用します。

各施設の調査・研究活動、展示、講座などの情報発信や普及活動を充実させ、市民と一体となった活動や取組を支援します。

長谷地域

- ・「中尾歌舞伎」の再開や地元の中学生在がファンクラブを作るなど、次世代を巻き込んだ活動が展開されています。平成30年(2018年)には、信州伊那中尾歌舞伎後援会が設立されました。今後こうした活動を継続させるため、中尾歌舞伎保存会や後援会とともに、後継者の育成を検討していきます。
- ・「中央構造線」、「戸台層^{とだいそう}と化石」などの自然資源や、里山の暮らしに根付いた「熱田神社^{あつたじんじや}」と芸能文化は、地域の歴史と生活を伝えるものであるため、継続的な調査研究を行い、市民参加の学習活動などを通して、地域づくりの資産として活用していきます。
- ・この地域は南アルプスユネスコエコパーク、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークに登録されているため、構成市町村と連携しながらより広域的な保護と活用を行い、市民参加の学習活動などを通じた取組を検討します。

拠点施設〈長谷公民館〉

長谷公民館(郷土資料室・戸台^{とだい}の化石資料室)を、歴史文化資源を発信する拠点施設や学習拠点として機能を充実させ、取組の広がりが持てるようにします。



図. 保存活用の地域区分と拠点施設